

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600157		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム 西牟田		
所在地	福岡県久留米市三潨町西牟田6323番地9号		
自己評価作成日	平成26年11月9日	評価結果確定日	平成27年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ご利用者様の尊厳を最大に考慮し日常生活において家庭的な雰囲気を大切にしています。ご本人様の持っている能力を最大限に引き出し自立に向けての生活が可能な限り出来る様に支援します

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年12月8日		

「グループホーム西牟田」はJRの西牟田駅から近い、住宅街の一角にある平屋建ての2ユニットグループホームである。母体法人では市内に系列のグループホームと県外に特養などを運営しており、会議などでの情報共有も進められている。施設周囲では造園も盛んで借景も楽しめ、敷地も広く、緑も多く植えられており、玄関には桜が植樹され春には花見もされている。ここ一年で地域ボランティアの協力も増えてきて、地域との連携も深まっている。毎日体操で体を動かしてリビングに集まるようにしており、レベルが落ちてそれぞれにできることをしてもらい、座ってでもできるようなことをしている。今は歌や踊りを交えた「365歩のマーチ」「ラジオ体操」を元氣よく取り組んでいた。外部評価での取り組みにも積極的に運営改善に活かしており、今後も事業発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し毎日朝礼時に唱和し実践につなげられる様に取り組んでいる	2年ほど前に改めて話し合っ本部の理念のほか、事業所独自の理念を作り上げた。「笑顔、思いやり」「安心、安全」「家庭的な雰囲気」と3つの柱がある。毎年スローガンも作り、今年は「地域とのふれあい」掲げて取り組んでおり、理念とともに掲示している。達成度合いに関しても年度ごとに見直している。	事業所全体での理念や思いの共有をさらに深めていくために、新しい職員と長い職員とも同じように話合う機会をもってはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2カ月に一回運営推進会を開催し区長・顧問・民生委員・市会議員・包括支援センター・介護保険課の方々との話しあいで地域に溶け込みながら、施設の運営がスムーズに行けるように努力している	小学校からのボランティアや、地域のお茶のボランティアなど月1回程度は何らかの来訪を受けている。近隣に区長や民生委員も住んでおり、差し入れなどももらうこともあり、地域情報は回覧板やお便りなどで仕入れている。敬老会では地域の方も招いて盛大に行っているが、地域行事に行ける入居者が少なくなって最近では参加していない。	自治会との交流を増やし、出来ることから行うことで自治活動への取り組みにつながることを期待される。また地域を招くような行事として夏祭りや餅つきなどを検討したり、地域行事への参加がなされることも望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会にて必要に応じて説明しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の状況・状態・活動などを報告し、現状で困っている事などにたいしてのアドバイスを頂きながら、ご利用者様により良いサービスが提供出来るように、職員皆でつねに話しあいながら取り組んでいます	運営推進会議には区長、民生委員、地元議員、市職員、地域包括から参加があり、地域ボランティアの紹介につながったり、入居者紹介を受けたこともあった。事業所の看板の掲示など助言や支援も多い。家族にも案内しているが、ここの一年の参加はない。会議をホールで開催することで入居者も参加しやすく、議事録は閲覧によって公開している。	家族にも参加をお願いしていくために、家族代表を作ったり、輪番制にして順番に参加してもらうことや、出欠案内と一緒に参加しない家族からも意見を頂戴するなど検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会時にホームの現状を伝え、同時に困っている事にアドバイスを頂いていますし業務上わからない事が出来たときは市の介護課に電話し解決が出来る様にしています	ケアマネージャーが更新時などに窓口を訪問し、生活保護課の担当などもやりとりしている。運営推進会議にも毎回参加されており、その際に質問したり、それ以外では電話などで相談している。担当者とも顔なじみで相談しやすい。近くに支所もあり、そこで地域包括に相談したり、空き情報も提供している。事業所発行の「ホームだより」を運営推進会議で報告もしている。	市が関わるような連絡会などの情報を収集して、コミュニケーションの機会を作ってはどうだろうか。また、市役所や支所の窓口パンフレットやお便りを置くことで、情報発信や協力体制が作られていくことにも期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめ、職員の目につく所に掲示し日々のケアにおいて身体拘束をしないケアの実践にむけて取り組んでいます。また毎月身体拘束の勉強会を実施しております	玄関施錠もしておらず、センサー設置もされていない。帰宅願望の強い方には見守ったり、付き添いで外出するなどして対応している。以前は車いすのY字帯の利用があったが、家族への説明、同意の上、見直しも行って短期間で解消した。委員会も組織しており、毎月の勉強会で話し合い、職員も理解を持って拘束行為の防止に努めている。	委員会活動や内部研修によって、学習が進められているが、計画的な外部研修の参加によって、さらに事業所としての取り組みが深まることにも期待したい。

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会にて虐待についての知識を深めながら防止に努めています		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会や研修に参加しながら知識を広め、全職員で活用できるようにしています	市が主催する権利擁護に関する外部研修に以前は参加していた。今までに制度を活用された入居者もない。支援が必要な場合は主に管理者が担当して、市役所や地域包括に相談して対応をするようにしている。	今後支援が必要な方が出てきた場合のために、事業所全体での理解度を深める研修などが計画的に行われることが望まれる。また、資料やパンフレットの準備がなされることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・担当者がご家族様やご本人様へ不安の減少の為に納得のいく形での説明を行い理解して頂ける様に努めています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。ご家族様より苦情が出た場合は速やかに解決に向け全職員で話し合いを行いより良い方向に行く様にしています	年2回、個別発送のお便りを担当者から送り、暑中見舞いや年賀状によって近況を伝えている。支払いを毎月の現金払いにしてもらうことで家族の面会機会も作っており、その際に話を聞くことが多い。リハビリの要望から、サービスを検討したこともあった。遠方の方には電話や手紙で報告も行なうが、面会時に聞くことが多い。	家族同士の関わりをつくったり、話し合いの機会を作るために、敬老会などの家族参加行事と一緒に家族会を企画してはどうだろうか。また、おたよりを写真付きで状況がよくわかるようなものにしたり、苦情や意見の受付表を使って事業所内での情報共有がなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている合同ミーティングや責任者会議などにて職員の意見や提案などを話し合いながら運営に反映させています	自己評価表も職員全員で協力して作り上げた。事業所全体の合同ミーティングと一緒に勉強会を行い、パート職員を含めて全員が参加し、レクや行事の機会をしている。職員が受け持った委員会からの提案や意見を出したり、日ごろからも話しやすい雰囲気を作られている。年2回の自己評価と個別面談もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心を持ちながら率先して業務が遂行出来る様に努めています		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別・経験に関係なく採用を行っています。また本人の持っている能力を最大限に発揮出来るようにサポートします。	職員は20～70歳代と幅広く、パート職員も多いが、一緒になって事業所全体でもコミュニケーションをとって協力的に運営している。事業所内で3つの委員会があり、職員は担当を職務にあたる。毎月の勉強会はユニットごとの担当者が交代で担当し、レクなどにも能力を生かしている。シフトや休憩時間などもお互いに協力してとられている。	スタッフルームへの掲示で研修案内もされているが、参加には至っていないので、積極的なスキルアップの機会がもたれることが望まれる。

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を最大限に尊重したサービスを行う様に心掛け、研修等へ積極的に参加する事により知識を深めるようにしています	人権に関する研修に参加し、ミーティングで伝達している。ケアマネージャー研修や実践者研修でも人権に関するカリキュラムを受けている。現状では主に管理者や計画作成担当者が受講することが多い。	外部研修参加時に、事業所内でも伝達研修や資料回覧を行うことが望まれる。また、行政の関連団体などによる出張講座や資料貸し出しを利用することで、事業所全体での人権啓発活動が進むことにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は必ず掲示し参加を促しています。また研修で得た知識は実践に生かす様に意識の改革を図っています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方との交流はなかなかスムーズには行っていない。サービスの質の向上に向けての取り込みを図らなければいけないと思っています		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階でご本人様の問題点・不安・要望などを十分に伺い安心して頂ける様なサービスを提供しより良い関係作りに努めています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を十分に伺い不安を解決できる様なサービスを提供する事により安心して頂ける様な良い関係作りに努力し日頃からのコミュニケーションを重視しています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様よりきちんと基本情報を頂き話し合いを重ねながらニーズに合った支援が出来る様に支援します		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来事や得意な事支援すれば出来る事等状態を見極めながら共に生活をしていく関係作りに努めています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様との信頼関係と共にご家族様へも日頃の状況を随時伝えながらご協力頂き信頼関係を構築できる様に努力しています		

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方々や知人などこれまでの関係が途切れない様に気掛け支援に努めています	入居以前からの知り合いや友人が訪ねてきたり、住み慣れた自宅やお墓詣りなどに個別ケアで連れて行くこともある。一時帰宅や外泊などは家族に協力してもらうこともあり、通いなれた美容室に行く方もいた。暑中見舞いや年賀状などは職員も手伝って入居者から発送してもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し見守りながら孤立させずにかかわり合う事の出来る様に気掛けています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、必要に応じて支援出来る所は支援行いまた相談事にも可能か限り対応しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を表せる様に働きかけます。理解力に応じての説明を行い希望等も納得できる様に支援しています	入居時に本人、家族からケアマネージャーが聞き取ってアセスメントを行い、昨年からは事業所全体で記録様式を統一した。一年ごとに見直しも行い、変化があった時も随時変更している。職員の意見はケアマネージャーが吸い上げて、日ごろ聞き取った情報をプランに追記し、次回のアセスメントに反映させている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活習慣を把握し、またその時々々の状態に応じての対応を心掛け、安心して生活出来る様に支援しています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で変化があった時、心身状態などの把握に努めまた本人の有する能力の把握に努めています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を実践しモニタリングにて適切かどうか検討を行い、必要に応じてご家族様やご本人様とも話し合いを行っています。	ユニットごとに全員のプランを一つのファイルにまとめて、全職員で共有しており、今年から毎日のプラン実施チェックを始めたことでも理解につながった。担当制で居室清掃や3か月ごとのモニタリングを職員が行い、カンファレンスはプラン見直し時に開催している。担当者会議では家族や関係職種からの意見も聞き取っている。	毎月プラン実施チェックを行っているが、担当者の関わり方を深めるために、プラン目標ごとに実施が紐づけられるようにしてはどうだろうか。

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、毎日記録し変化があった時などは、申し送り時などに報告し情報を共有し つなげています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに対応出来るように、良いサービスが出来るよう取り組んでいます		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得ながら、楽しい時間を持って生活できるように取り組んでいます		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人家族にまず目的を説明し、健康管理は主治医に協力をお願いしています	元々のかかりつけ医を希望すれば利用できるが、ほとんどの方が提携医を利用して往診を受けている。他科受診も基本は家族支援だが、事業所が介助したり、同行支援することも多い。看護師が3名いることで毎日いずれかの看護師が出勤して健康管理をこまめに行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活のなかでの異常発見に気づき、報告し指示を受け適切な処置を行うようにしています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時、入院時関係機関との情報提供を中心とし、今後の支援について、家族の意向を尊重しながら良い関係作りに努めています		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢の方が多く急変に備え家族の意向を傾聴し、主治医との連携を密に状態説明の機会を設け、必要に応じての対応が出来るようにしています	今までに看取った方はおらず、重度化の際には病院搬送をしている。昨年、看取り方針を定めて説明、同意を得るようにした。家族にも説明、同意の上対応しており、現状の体制では看取りができない旨を了承してもらっている。	

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習を定期的に行い、利用者の急変に備え、すべての職員が実践力を身に付けるようにしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に素早く対処出来るようしている。避難訓練を行う時等は、地域の方等の参加をお願いしています	年2回訓練を行い、近隣に回覧板で案内を回しており、民生委員や区長も毎回参加している。消防署からも参加があり、夜間想定訓練や、救命訓練も行った。連絡網にも地域に入ってもらい、協力体制が作られている。スプリンクラーなどの防災設備も整えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の情報などは、鍵付きの書棚庫に保管しています。	今年の年間スローガンとして言葉かけを掲げて、言葉遣いなども改善されてきた。排泄介助時もプライバシーに配慮し、見えないように気を付けたり、羞恥心に配慮して同性介助での対応をすることもある。接遇の研修参加や伝達も行い、個人情報管理にも留意している。	おたよりや掲示物などの写真利用に関しても、個人情報利用の説明や同意を文書で交わされることが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や行動を見て、意志の疎通が図れる様に、いつでも話が聞けるようにしています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様との日常の会話から、何がしたいか聞きながら月の行事で希望に添える様に支援しています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が着たい服や髪型等の希望を伺いながらその人らしさを大事にして支援しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	九医食を導入しメニューも多種にわたり行事食などへの対応も出来るようにしています。ときにはご利用者の希望もお聞きしながら柔軟な対応を心掛けています	業者からのメニュー、食材配送を受け、職員が調理している。毎月1日は「ごちそうの日」として事業所で企画して寿司や刺身を提供したり、外で食べたり、ウナギなどを食べることもあった。下ごしらえや配下膳などできることをしてもらうこともある。本人のペースでの食事介助を行い、食事の感想や食べたいものを聞いて個別に一品増やしたり、アレンジして対応することもある。	

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあわせての食事量を提供し、また水分量等のチェックを把握し状態観察に注意しながら行っています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを必ず施行し清潔を保持できるように努めています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声掛けやトイレ誘導を行いトイレでの排泄が出来るだけ行える様に気掛けています。またオムツなどを使用される方は個々の状態に応じています	排せつチェック表を使い、職員全員で情報を共有し、それぞれの排せつタイミングを計って誘導につなげている。部屋にもトイレがついており、安心して利用でき、できることは自分でしてもらい、夜間のおむつ利用からリハビリパンツに改善した方もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難者は、主治医や看護師に報告し指示を仰ぎ対応し、個々食事の内容や運動にも配慮しています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否がある時は、時間を置いたり別の日に行い、利用者様意向に沿う様に支援しています	ユニットバスだが、浴槽は広めで2人でも十分な余裕があり、脱衣場、浴室にも空調がつき安全に配慮されている。1人週2、3回、午前から昼過ぎまでの入浴をしており、順番はそれぞれで対応し、拒まれた際も無理強いせず、最低週2回は入ってもらい清潔を保っている。好みのシャンプーや入浴剤を使うこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や状態を見ながら声掛けを行い、安心して気持ちよく眠れるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示にて服薬を行い、日ごろから薬の種類・内容・目的等の把握し状態の変化時に対応ができるようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を尊重し、出来る事は手伝って頂き生きがいや楽しみを持って生活出来る様に見守りながら支援しています		

H26自己・外部評価表(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の要望に完全にはお応えできない部分は有るが可能な限りは対応する様に努めています。また四季に応じての花見物・買い物・外食・ドライブなどにて外出の機会を設けています	系列事業所の車を借りて、外出レクを行い、道の駅やショッピングモールにいたり、季節の花見や買い物に行くこともある。個別外出や少人数でのドライブをしたり、近隣の散歩などには気軽に行っている。車いすの方でも同じように外出を楽しんでいた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かっています。ご本人様の買い物などの要望が有る時は対応できる様にしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から訴えが有る時は、電話をかけられるように支援しています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間には日差しがふりそそぎ明るく、窓からはのどかな自然あふれる風景が眺められます。壁には利用者様と一緒に壁の飾りつけをして、四季の移り変わりが目で感じられ、穏やかに過ごされるようにしています	手作りのクリスマスの飾りつけがあり、手の込んだ作品、入居者と一緒に行った絵や飾りなどによってにぎやかで明るい雰囲気になっている。広いリビングの一角にはテレビ台が置かれた半円形の小上がりの和室があり、休憩スペースにもなっており。リビング中央に置かれたダイニングテーブルでは、食事や会話が楽しめる。周囲には緑が多く、季節の移ろいが窓外に感じられ、2年前には桜を庭に植えて春の楽しみになった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファやテレビを配置し、気の合った利用者様同士で会話を楽しんだり、ゲームをしたりして、思い思いに過ごされる場所を提供しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品などは持ち込んで頂き、今までの自宅での生活を可能な限り維持し安心して生活が出来る様に支援します	居室のドアは障子戸の引き戸で和風の趣がある。各部屋に洗面台とトイレもついており、自分のタイミングでトイレに行くことができる。希望に沿えば畳敷きの和室も準備されている。介護ベッドは事業所によって用意され、入居者はそれぞれ使い慣れた家具などを持ち込んで思い思いの部屋作りをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置し安全に歩行が出来る様に配慮している。またご本人の出来る事を尊重しながら出来るだけ自立した生活が維持できるように支援しています		